

# 泉のほとり

・待降節第一主日



今月の詩編 「第七十六編」

神はユダに御自らを示され

イスラエルに御名の

大いなることを示される。

神の幕屋はサレムにあり

神の宮はシオンにある。

そのような深刻な状態の兄弟たちに、平坦な道が備えられているとは語らず、この手紙は1章の冒頭で、試練を通して、「信仰が試され、精錬され、完全で申し分なく、欠けたところのない人になる」と語られた。それには深い意義があつたことを思い返すのです。

試練にあうと、人は苦しみの原因が自分の外側にあると見ることが多いのです。苦しみの原因は誰それにある、あれこれのせいだと、不平を言うのです。ヤコブ先生は「裁きを受けないようにするためには、互いに不平を言わぬことです」と語り、「ヨブの忍耐」から学ぶようにと話されました。試練の只中のヨブは多くの言葉を語りますが、彼の不平の言葉は、直接自分に苦しみを与えた者のせいだと言わず、神に向ける訴えでした。試練にあう時に必要な姿勢は、まず不平を言わないこと。特に「人」にぶつけない。あくまでも神に向ける姿勢が、ヨブから教えられる信仰であると思わされるのです。

ヤコブ先生はまたも「裁きを受けないように」と、「何よりもまず、誓いを立てはなりません。『然り』は『然り』とし、『否』は『否』としなさい」と語られました。人は不平を言う時、神が聞いておられるとの実感はなく、恐れもないのです。反対に、ヤコブには、私自身の口に上る言葉を神は直に聞いておられるとの臨場感があつたのだと思います。

「裁きを受けないように」とは、神への恐れを直に見る、自

信仰が試されることで忍耐が生じる。忍耐を働かせることで、完全で、欠けたところのない人になります」と始められたこのヤコブの手紙。

これまで見てきた教会の様子は深刻でした。世のうわべに捕らわれ、えこひいきがあり、貧しい人が見下され、信仰は行いが伴わないもの。妬み、利己心、それに伴う争い、悪口を言い、裁き合う。ヤコブは「神は高ぶる者を敵とされる。しかし、へりくだつた者に恵みをお与えくださる」と語りました。

そのような深刻な状態の兄弟たちに、平坦な道が備えられているとは語らず、この手紙は1章の冒頭で、試練を通して、「信仰が試され、精錬され、完全で申し分なく、欠けたところのない人になる」と語られた。それには深い意義があつたことを思い返すのです。

試練にあうと、人は苦しみの原因が自分の外側にあると見ることが多いのです。苦しみの原因は誰それにある、あれこれのせいだと、不平を言うのです。ヤコブ先生は「裁きを受けないようにするためには、互いに不平を言わぬことです」と語り、「ヨブの忍耐」から学ぶようにと話されました。試練の只中のヨブは多くの言葉を語りますが、彼の不平の言葉は、直接自分に苦しみを与えた者のせいだと言わず、神に向ける訴えでした。試練にあう時に必要な姿勢は、まず不平を言わないこと。特に「人」にぶつけない。あくまでも神に向ける姿勢が、ヨブから教えられる信仰であると思わされるのです。

神は私たちのすべての言葉を聞いておられます。その神の御前で、どんな言葉を発しましょうか。悪口、裁き、不平、誓いではなく、ヤコブは「あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌をうたなさい」と語りました。

そして「正しい人の祈りは、大きな力がある」と語りました。正しい人とはどのような人なのか、預言者エリヤの話を紹介しています。エリヤは雨が降らないようにと熱心に祈り、3年半にわたって地上に雨が降りませんでした。人にとっては大迷惑と思われることです。しかし、そう祈ったエリヤの心が、神の目に正しいと認められたのです。それは真に人を幸いに導き入れるためでした。民のいのちを自分のように愛する、そのたましいが生きることを願うエリヤの自己献身が、その祈りに表れているのです。エリヤの祈りは迷いの中にいたイスラエルを神に立ち返らせ、たましいの救いのための祈りでした。

「罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人のたましいを死から救い出し、多くの罪を覆うことになると、知るべきです」とヤコブ先生は証言しています。試練と忍耐を通して、欠けたところのない者になる。そこから、なお、私たちも主イエスに従い、預言者エリヤのように、教師ヤコブのように、自分自身をささげる力ある祈りに生き、迷いの道から人を連れ戻す主イエスのお働きに用いられるものとなりたいと願うものです。

(ヤコブ五章一二(二〇節 黄允湜牧師)

分の口を慎む信仰を持つヤコブのことばと思われます。私自身の心と口にある言葉すべてを神が直に聞いておられる、その事実を忘れないでいきたいと思います。

「誓い」は表面上、悪いものとの認識は持たないものでは

ないでしようか。天にかけて誓い、伝道に奉仕に自分自身を

ささげると言う人がいたら、むしろ「信仰」を表していると

理解されないでしようか。でも、なぜそれを人に言うのか。

静かに実行すればよい。不平や悪口とは違い、聞く人も話す

本人も気づかぬうちに「偽善」に陥ってしまう。それゆえに

ヤコブは「何よりもまず、誓つてはならない」と強調したの

ではないかと思います。

2025年度

## 教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたくしたちのヴィジョン  
主イエスの愛の中で、  
愛と交わりを通して  
お互に成長する教会

## 《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

(一月四日)

飾り付け片付け予定

午後六時三〇分

## 《今日のお知らせ》

## 《礼拝伝道委員会より》

○ 今日から待降節(アドベント)に入りました。アドベントのご挨拶とクリスマス献金袋を配布しました。

○ 礼拝後、地下ホールでクリスマスイブ礼拝に向けての懇談会を行います。

○ クリスマスイブ礼拝「奉仕」のごあんないを配布いたしました。ご参加いただける方は、出来るだけ三〇日懇談会までにロビー掲示板の奉仕分担表にお名前を書き込んでください。多くの方の参加を願っています。今日の懇談会で打合せをいたします。

### ○ アドベントスケジュール

(今年のクリスマス関連行事予定)

○ 美術館で行われている幼児画展覧会に附属幼稚園クローバー組の園児たちの作品が展示されています。ぜひ足を運んで、ご覧ください。

二月二十三日(土) 幼稚園クリスマス(礼拝堂)

二月二二日(日) 〈クリスマス礼拝〉

子ども礼拝(礼拝堂) 午前九時二〇分

主日礼拝(礼拝堂) 午前一〇時四五分

クリスマス祝会、愛餐会(地下ホール)

二月二四日(水) クリスマスイブ礼拝(礼拝堂)

午後六時三〇分

## 『文 読 詩 篇』

※会衆は太字の箇所を唱和します。

(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇七十六篇】 指揮者によつて。

伴奏付き。賛歌。

アサフの詩。歌。

神はユダに御自らを示され

イスラエルに御名の大いなることを示される。

神の幕屋はサレムにあり

神の宮はシオンにある。

そこにおいて、神は弓と火の矢を碎き

盾と剣を、そして戦いを碎かれる。

あなたが、餌食の山々から

光を放つて力強く立たれるとき

勇敢な者も狂氣のうちに眠り

戦士も手の力を振るいえなくなる。

ヤコブの神よ、あなたが叱咤されると

戦車も馬も深い眠りに陥る。

あなたこそ、あなたこそ恐るべき方。

怒りを発せられるとき、  
誰が御前に立ちえよう。

あなたは天から裁きを告知し

地は畏れて鎮まる

神は裁きを行つたために立ち上がり

地の貧しい人をすべて救われる。

怒り猛る者もあなたを認める

あなたが激しい怒りの名残を  
帝とされるとき。

あなたたちの神、主に誓いを立て、

それを果たせ

取り囮むすべての民は

恐るべき方に賣ぎ物をもたらすがよい。

地の王たちの畏れる方は

支配者の靈をも断たれるであろう。

(司・会)

## 『今日の子ども礼拝』

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「万軍の主の熱意が」

聖書 イザヤ9章1～6節

説教者 吉村和雄名誉牧師

## 『次週の礼拝』

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神さまの約束は実現する」

聖書 マタイ1章18～25節

説教者 吉村和雄名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 94番 324番

説教 「神を探し求める人に」

聖書 使徒8章26～40節

説教者 富間彰広兄





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 95番 335番  
説教 「聖書は救いに導く知恵を」  
聖書 テモテ二3章10～17節(新約P.394)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄允湜 牧師  
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「来たりませ異邦人の救い主」G.F.カフマン

### ○讃美歌95番

- わが心はあまつ神を とうとみ  
わがたましい すくいぬしを  
ほめまつりてよろこぶ
- 数に足らぬ はしためをも みすてず  
よろず代まで さきわいつつ  
めぐみたもう うれしさ
- 御名は清く 大御業はかしこし  
代々にたえぬ みいつくしみ  
あおぐものぞ うくべき
- 低きものを 高めたもう みめぐみ  
おごるものを とりひしきて  
散らしたもう みちから
- アブラハムの すえをとわに かえりみ  
イスラエルを 忘れまで  
救いたもう とうとさ

アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「久しく待ちにし」 (13世紀のチャント)

- 久しく待ちにし主よ、とく来たりて  
み民のなわめを解き放ちたまえ  
主よ、主よ、み民を救わせたまえや
- 明日の星なる主よ、とく来たりて  
お暗(ぐら)きこの世に み光をたまえ  
主よ、主よ、み民を救わせたまえや
- ダビデの裔(すえ)なる主よ、とく来たりて  
平和の花咲く国を建てたまえ  
主よ、主よ、み民を救わせたまえや
- 力の君なる主よ、とく来たりて  
輝くみくらに とわに即(つ)きたまえ  
主よ、主よ、み民を救わせたまえや

### ○讃美歌335番

- すくいぬしのみこえをききて  
身とたまとを ささぐるほかに  
まことの幸 またとあらじ
- へりくだりて おさなごのごと  
すがりまつる わが主のほかに  
つきぬちから またとあらじ
- つみをはなれ こころをきよめ  
ただみむねを おこなうほかに  
全き自由 またとあらじ
- 朽ちはつべき ものをうちすて  
主をうやまい おそるるほかに  
まことの知恵 またとあらじ

アーメン

聖餐曲「パストラーレ」J.S.バッハ

後奏曲「キリエ(天使のミサより)」L.ミス